

四国地方整備局 HP 掲載の第1回懇談会議事概要を中心に整理

道ビジョン各施策への提言	第1回推進懇談会の意見	対応方針
	<p>社会実験では、実験実施前から、どうなれば成功なのかを明確にしどういうデータを取り、どのように使うかということが重要 国民的なコンセンサスを得ながら高速道路の料金体系が決まることも大切</p>	<p>四国は高速道路ネットワークの不完全さ、利用料金の割高感などから、利用交通量が伸びない等、高速道路本体の効果を発揮していない現状にある。 このような背景のもと、多様で弾力的な料金施策への取り組みとして、一般道路から高速道路への交通の転換や、四国内外の広域交流拡大等を目的とする有料道路の料金に係る社会実験を実施。 本実験により、利用者動向の分析、交通量の変化などから、利用者ニーズを把握し、高速道路の利用拡大、広域交流拡大に結びつく料金施策検討に反映させるとともに、本格実施に向けたフィージビリティを探る。 平成16年度は今年度の成果を踏まえ、利用者ニーズをより反映した形での取り組みを考えたい。</p>
	<p>88クリーンウォークの参加者が環境などに関するモニタリングにつながるような仕組み、また継続的な取り組みを行うべきである</p>	<p>88クリーンウォークは来年度も引き続き実施する予定であり、年々参加者が増えるよう、また、この活動を通して道路や環境について考えてもらうような仕組みについて検討していくこととする。</p>
<p>四国全体の目標像、各県の目標像、各市町村の目標像を明確にし、地域づくり・まちづくりの視点で道路をどう絡ませるかがポイント 「魅力」は地域の連携が大切。地域が誇れるまちづくりができれば魅力はついてくる。道路は「線」であり、まちづくりの支援ができる 「魅力」では、観光客、住民のどちらが対象なのか、あるいは両方か、対象を明確にして施策を行うべき 四国は点の観光資源。これをつなげて外からお客を呼べる線（道路）が必要</p>	<p>道ビジョンでは地域づくり・まちづくりへの支援を積極的に行っていくこととしている。具体的には、ボランティア活動等を積極的に支援し、それらの取り組みと協働・連携して、道路の魅力の向上やサービスの向上を図るものである。「魅力」の対象としては基本的にはそこに住んでいる住民、道路利用者が主役。しかし、観光交流の拡大がこれからの四国の大きな課題の一つであり、観光客及び住民の両者を対象とし、両者が満足できるような施策実施に努めつつ、四国の観光交流の促進を支援する8の字ネットワークや広域幹線ネットワークなどの基盤整備を進めるとともに地方道路交付金事業などを活用して四国の多様な道そのものを景観に配慮して整備するなど四国の魅力を引き出すことを検討する。</p>	

施策・事業の進め方	第1回推進懇談会の意見	対応方針
	<p>道をつくることは必要だが、つくることが目的化されている面もあり、いかに利用するかが大切 使う側の視点、地域性・地域らしさを重視するこの2つの視点が重要</p>	<p>社会資本整備の投資余力が縮小していくことが予想される中、既存ストックの機能を最大限に発揮することが重要であるという認識のもと、道の使い方を見直して、利用の仕方や運用ルール工夫による利用者サービスや交通環境の向上を図ることとし、具体的には、有料社会実験による利用効果の検証や、四国ロードチューンアップなど利用者の視点、地域の実情に応じた施策・事業を展開していく</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">施策への要望</p>	<p>第1回推進懇談会の意見</p>	<p>対応方針</p>
	<p>山間部は都市部に比べ道路整備が非常に遅れた状態である 徳島県は山間部が多い地域であるため、安全・安心を優先に 四国東南・西南地域において南海地震対策や救急医療など安心確保のために一日も早い高速道路整備をお願いしたい 水産品、農産品は鮮度が命であり時間との競争である。本四三架橋開通、高速道路整備により、東京等の大消費地への出荷を可能にした</p>	<p>山間地域の日常生活を支え、暮らしの安全・安心を高める地域づくりのため1次ネットの早期確保が重要であると認識。また、8の字ネットワークの形成は、災害に対する信頼性の高い道路ネットワークの確保の上からも重要不可欠であり、概ね20年後の概成に向けて、施策の重点化を図っていくこととしている。 推進プログラム(いわゆる5カ年計画)において、ローカルスペックの導入や新直轄方式等の導入等により事業のスピードアップを図ると共に、現道活用も含めた整備手法を検討の上、サービスレベルの向上を図ることとしていく</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">業績計画書について</p>	<p>第1回推進懇談会の意見</p>	<p>対応方針</p>
	<p>成果主義にもとづく道路行政を行うにあたり、業績の取り方、わかりやすさは非常に重要 業績計画書において評価基準を明らかにし、目標数値に向かって今後少しずつ改善していけばいい 業績計画書という概念が分かりにくい。ここでの視点や定義は明確にすべき 指標の定義が微妙に異なるものがあるため、アウトカム指標により評価するスタンスを明確に(四国比較するつもりなのか、比較しないのかなど) ユーザーやニーズに対応した指標とはどういうものか、政策目標として本当に正しいかという視点に配慮しつつ、アウトカム指標をつくるべき 費用対効果において損益分岐の考え方を盛り込んで良いのではないかと、逆に道路は社会資本のため損益分岐が合致しないと考えられる 四国に合ったアウトカム指標という視点は賛成。しかし、費用面についての議論が必要。利用者としては、道路は欲しいが、納税者としては費用対効果について明らかにして欲しい 15年度の事業進行目標を掲げる際に、これらの事業の目的や期待される効果を明確にしておくことが必要 国民・市民に理解してもらうためPRが大切。交差点改良など既存ストックの活用においても費用対効果が高いものもある。これらを見つけて上手にPRしていくべき</p>	<p>前回の懇談会においては、平成15年度より試行的に実施する「業績計画書」について審議頂いた。この業績計画書は、1年間の成果目標を事前に公表し、事後にその評価を行い、以降の施策・事業に反映していくもので、頂きましたご意見につきましては引き続き今年度の成果を総合的に評価し、四国に合った「達成度報告」や来年度の「業績計画」の策定に反映していきたいと考えている</p>

事業の優先順位	第1回推進懇談会の意見	対応方針
	<p>アウトカム指標による評価システムにおいて「集中的に投資する」ということは優先順位をつけるということ。それは誰がどのようにして決めるのか明らかにすべき</p> <p>事業の優先性や期待値などは素人でも判断できるようにしくみに（共通評価項目による5段階評価など）</p> <p>「活力」「魅力」のアウトカム指標にはユーザーアビリティを付加すべき</p>	<p>道ビジョンでは、道づくりの変革の一つとして「施策の重点化と評価システムの導入」を掲げている。</p> <p>道ビジョンの進行管理の取り組みの中で「成果の高い事業展開」や「その成果」について、地域住民や利用者に分かりやすく伝えていきたいと考えている</p>

その他	第1回推進懇談会の意見	対応方針
	<p>専門的用語はコラムなどで説明があれば議論しやすい</p>	<p>一般的でない専門用語については定義を記載することとする</p>
	<p>ユーザー側の意見徴収はインターネットだけでは対象が限定される。高齢者等にも配慮し、もっと広くアクセスできるパブリックコメントの取り方をする方が良い</p>	<p>より広く地域住民や利用者にパブリックコメントを取りたいと考えている。新聞・マスコミ等のメディアを活用した広報手法を取り入れながら、効果的な意見収集を図りたい</p>
	<p>「安心」「活力」「魅力」が重なり合っただけの道ビジョンであり、これらを実質化して行く内容を付加していく必要がある</p>	<p>「魅力」と「活力」、「安心」と「活力」の両面を支える具体的な事業の峻別、スピードアップを図ることを重点に置くこととする。</p>